

たかが中学生、されど中学生

先週、残念ながら雨で延期になった体育大会がさわやかな秋空の下、本日無事に実施することができました。コロナ禍の関係で3年生の保護者のみの応援、種目も少し減らすなどできる範囲の中で工夫を凝らしての体育大会となりました。力強い選手宣誓で始まった体育大会は一人一人が競技、演技・応援、そして係の仕事と一つ一つに全力で取り組んでいました。全般を通じて感動したのは誰もが手を抜いていないこと、そしてその頑張っている人にクラスや学年を超えて応援していることでした。中にはきっと走るのが苦手な人もたくさんいたことでしょう、出たくない種目に自分を犠牲にして出場した人もいるかと思います。そんな人の気持ちをどうか大事にしてください。



閉会式の時にお話ししましたが君たちは「**たかが中学生、されど中学生**」です。世の中から見れば何の力もない小さな存在、何をするにも親の力を必要とするたかが中学生です。しかし、校長先生から見ると君たちはされど中学生です。一人一人の力はちっぽけだけど、一人一人が心を合わせ、本気になって取り組めば人の心を変えることができる。感動させることができるそんな立派な中学生だと思っています。その集大成としての姿を見せてくれたのが3年生の南中ソーランだったのではないのでしょうか。「構え！」の号令の瞬間に会場の空気を一変させました。一人の本気の気持ちがあれば回りを変えることができるのです。そしてさらに音楽がすぐに始まらないアクシデントにも動揺することなく構えを続けた強さと真剣さにさらに感動しました。



最後の西田一花さんの言葉にも一つ一つ重みがありました。なかでもこの3年間で「**何事にも一生懸命取り組むことが1番かっこいい**」ということに気づいた。という言葉はみんなの心にも残ったのではないのでしょうか。さあ！明日からさらなる輝く場を目指して頑張っていきましょう。